

産業を育てる 創る 連携・醸成・発信 次世代へつなぐ産業の創造

Pick Up

大崎産米の販路拡大と農業支援

姉妹都市である東京都台東区とのつながりを生かした大崎産米の首都圏への販路拡大や、ブランド米『ささ結』の国内外へのプロモーションを展開するとともに、仙台牛の輸出促進や園芸作物の支援を強化し、持続可能な農業の推進に努めます。



▲ブランド米『ささ結』

■有害鳥獣対策と「大崎ジビエ」のブランド化

- ▶捕獲や侵入防止などの総合的なイノシシ対策の推進と、「大崎ジビエ」のブランド化による地域活性化を推進
- ▶市民への注意喚起や捕獲体制の強化、放任果樹の伐採によるツキノワグマの出没・被害の防止

■鳴子温泉郷の持続可能な観光地域づくり

- ▶鳴子温泉郷の持続的な発展に向けた、地域と一体となった観光地域づくりへの伴走支援
- ▶国民保養温泉地としての心と体を癒やす温泉地づくりと、温泉の持続的活用に向けた源泉管理とインバウンド環境の整備

■中小企業・商業の活性化と若者の地元就業促進

- ▶おおさき産業推進機構と連携した企業支援の充実、商店街や各店舗の魅力向上支援による商業の活性化
- ▶奨学金返還支援制度を活用し、市内企業の人材確保と若者の移住・定住を促進

■企業立地の推進と新たな事業用地の確保

- ▶データセンターや蓄電所の誘致、食・ものづくり産業のさらなる集積で若者の地元就業環境を創出
- ▶幅広い企業誘致の受け皿となる新たな事業用地の確保に向けた、民間企業との連携による工業団地造成の検討

安心を育てる 守る 安全・安心・住みやすさの創出

Pick Up

小学校学校給食の完全無償化支援

物価高騰に伴う保護者の負担軽減と子育て支援のため、4月から小学校の給食費を完全に無償化するとともに、中学校の給食費についても給食費の一部を市が負担し、令和元年度から保護者負担額を据え置いています。今後も地場産食材を活用し、安全・安心でおいしい給食を提供します。



▲学校給食を配る児童

■宮城県・大崎市9.1総合防災訓練の実施

- ▶8月30日(日)に、大崎市立松山中学校グラウンドを主会場として開催する、宮城県と本市との合同総合防災訓練の実施
- ▶中学生や自主防災組織、関係機関などの参加による、自助・共助・公助が連携した迅速な災害対応体制の構築

■学校教育の充実と休日の部活動地域展開

- ▶GIGAスクール構想の推進やAIドリルの活用による、個に応じた主体的・対話的で深い学びの実現
- ▶4月から休日の学校部活動は行わず、「大崎市における地域クラブ一覧」から生徒が自主的に選択できる地域クラブ活動(社会教育活動)へ移行するとともに、多種多様な活動機会の環境整備を推進

■上下水道の耐震化と雨水対策の推進

- ▶古川清水浄水場からの送水管や鹿島台鷹待嶽配水場の更新工事を進め、市内全域の老朽管更新と水道施設の耐震化を推進
- ▶大崎市雨水管理総合計画における古川地域最優先対策地区の事業実施に向けた手続きを進めるとともに、現在着手中の古川李埴排水区や松山千石堀排水区などの雨水涵渠整備により浸水被害を軽減

■「こども誰でも通園制度」の実施

- ▶4月から保護者の就労状況にかかわらず、0歳6カ月～3歳未満の未就園児を預けられる「こども誰でも通園制度」が開始
- ▶園での遊びや集団生活を通じた子どもの成長・発達機会の提供と、子育てしやすい保育体制のさらなる充実

■流域治水の加速と水害に強いまちづくり

- ▶吉田川・高城川流域では、国や県と連携し、「命と生業を守る流域治水推進計画」に基づく治水対策を加速
- ▶多田川流域では、「巧みな水管理と共に進化する流域治水協議会」を通じ、浸水被害の防止と軽減に向けた計画の策定

■大崎市民病院の経営強化と地域医療の確保

- ▶社会情勢を注視しながら進める地域医療連携拠点施設の整備と、診療報酬改定に対応した病院収支の改善
- ▶大崎市民病院分院・診療所での在宅療養支援機能の充実による、安心な地域医療体制の確保

令和8年度 施政方針

問 政策課政策企画担当 ☎23-2129

令和8年第2回大崎市議会定例会の冒頭、中島市長は、令和8年度の市政運営の基本的な考え方や重要施策について、「未来につなげる大崎をみんなで育てていく」という思いのもと、「人を育てる」「産業を育てる」「安心を育てる」という三本の柱を掲げました。さらに、第2次大崎市総合計画の重点プロジェクトである「挑む」「創る」「守る」の3つの視点でまとめた施政方針を述べました。その中から、主な施策についてお知らせします。

なお、施政方針の全文は市ウェブサイトで閲覧できます。



人を育てる 挑む 未来を担うひと・地域・田園都市の創生

Pick Up

第3次大崎市総合計画の策定

本計画は、令和9年度から令和18年度までの10年間を計画期間とし、本市のまちづくりの最重要指針となるものです。

昨年度は、第2次大崎市総合計画の評価・検証や課題整理、各種意識調査を実施したほか、若い世代を含めた多様な意見を計画に反映するため、市内各地域での市民ワークショップや高校生タウンミーティングなどを行いました。

今年度は、これらの意識調査の結果や総合計画審議会、住民説明懇談会などでの意見を踏まえながら計画案の作成を行い、令和9年3月の策定完了を目指して未来につなげる大崎に向けた計画づくりを進めます。



▲高校生タウンミーティング(令和7年)

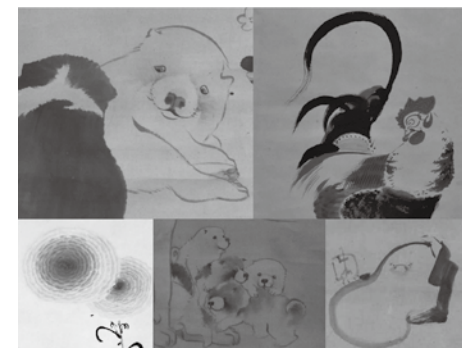
Pick Up

大崎市誕生20周年記念事業

本市は合併20周年を迎え、「20年の感謝 宝の都(くに)・大崎を未来へ」をテーマに、11月3日(火)祝の記念式典や冷泉家時雨亭文庫の和歌披露、江戸時代の絵師 伊藤若冲などの水墨画の特別展といった多彩な記念事業を展開します。



▲冷泉家和歌披露(平成28年)



▲特別展「かわいい 楽しい 江戸絵画
ー若冲・声雪・燕村ー」

■大崎市立おおさき日本語学校卒業生の定住支援と多文化共生社会の推進

- ▶日本語学校の生徒の地元就職マッチングと、定員増に向けた生徒確保対策や学生寮の確保
- ▶交流イベントなどの開催を通じ、多文化共生に向けた市民の意識向上を推進

■陸羽東線の利活用促進

- ▶陸羽東線の存続に向けた市民のマイレール意識の向上と、鉄道を活用した観光客誘致の展開
- ▶1日当たりの平均通過人員1,000人の目標達成に向けた利用促進

■世界農業遺産「大崎耕土」の次世代への継承

- ▶次世代を担う語り部の育成や世界かんがい施設遺産「南原穴堰」を拠点としたツーリズム推進による、ブランド価値の向上と経済循環の強化
- ▶「SDGs未来都市」として環境と経済を両立させる、生物多様性地域戦略の策定やパートナー企業との新価値創出